

安保法制を問う

古関彰一氏(獨協大学名誉教授)が講演

8月30日(日)、M&Dホール

協会は毎年恒例のサマーセミナーを8月30日、M&Dホールで開く。午前の部は、政策部が歯科技工問題について報告する。午後の部は市民講座として開き、安倍政権が今国会で成立を狙う安全保障関連法案と平和主義の行方について古関彰一氏(獨協大学名誉教授)が講演する。

古関氏の専門は憲法史。日本国憲法の制定過程に関する研究を始め、講和条約・安保条約などとの関わりから憲法の平和主義の軌跡を明らかにしている。現在は安全保障論を新たな角度から考察している。

サマーセミナー 2015

大阪 保険医新聞

7/15 2015年第1208号 (毎月5、15、25日発行)

午前の部の歯科技工問題を通じて憲法9条の成立過程から「平和国家」の歩みを振り返り、「安全保障」の在り方を見つめ直す。

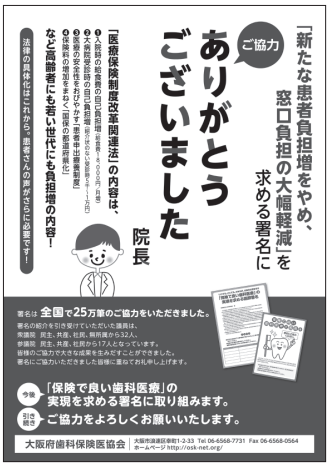
政策部が報告し、診療報酬の抜本的引き上げを求め、危機打開の方策を展望する。

サマーセミナー2015

【日時】8月30日(日) 午前10時半〜午後3時半
【会場】M&Dホール 【定員】100人
【会費】会員・スタッフ・家族無料
※お申し込みは事務局(Tel 06-6568-7731)

署名お礼ポスター

今号に同封、活用を



「新たな患者負担増をやめ、窓口負担の大幅軽減を求める請願」署名の取り組みが6月末で終了したことを受け、協会では署名結果とお礼を患者に伝えるポスターを作成した。今号に同封し、会員に届ける。ポスターでは、院長名で署名への協力のお礼を述べ、寄せられた署名を国会へ提出したことを報告している。

安保法制廃案へ国会要請

憲法審査会を傍聴

日本を海外で戦争する国にするための憲法9条破壊の「安保法制」関連法案が審議入りし、論戦が続く6月11日、協会・保団連が取り組んだ国会要請行動には16協会、89人が集まった。協会からは江原豊、杉本敏、中西幹夫、森啓、段野和茂、平野権米、有地正の各役員が参加し、診療報酬のプラス改定や歯科技工士の窮状改善、医療制度改悪に反対する要請などを行った。衆院・憲法審査会の傍聴や医療改革関連法につ



(上) 宮本岳志議員 (中) 清水忠史議員 (下) 辰巳孝太郎議員

会員の弔慰について

速やかに協会事務局まで 管理部

大阪府歯科保険医協会は会員を対象に、社会慣習に従った弔慰をおこなっています。ご本人の死亡や家族(1親等)の死亡、診療所または自宅が火災・水害の被害にあわれた時は、速やかに協会事務局までご連絡ください。

孝太郎参院議員が面談に応じた。宮本議員は「社会保障を削っても、アベノミクスでは実態経済が上向かず財政再建は無理だ」と語り、窓口負担の軽減を求める請願署名161筆の紹介議員を引き受けた。辰巳議員は安保法制について「会期延長すれば問題点がさらに明らかになる。数の力で押し通すことは許されない」と話した。(3面に要請議員一覧)

基軸 安保法制を斬る

憲法会議代表幹事・弁護士 吉田健一

海外での武器使用を拡大

PKO法変え、多国籍軍にも参加

今回の安保法制では、これまで以上の枠を超えてPKOや多国籍軍の活動に参加し、武器使用や安保理の決議にもつき、停戦合意のもとで武力紛争の再発を防止する監視活動とか、新たに確立される政府の援助などを行う国連の「平和維持活動」である。

PKOとは、国連総会や安保理の決議にもつき、停戦合意のもとで武力紛争の再発を防止する監視活動とか、新たに確立される政府の援助などを行う国連の「平和維持活動」である。

PKO活動に参加してきたが、それは、戦闘行為や武力行使に及ぶことがない活動にとどめ、武器の使用も正当防衛の範囲に限定するなどの条件のもとに認められてきた。

例えは、アメリカがアフガニスタンでタリバン政権を倒した後に成立した政府を支援する「国際治安支援部隊」(ISAF)にも参加すること

なる。ISAFは国連PKOとは異なり、治安確保のためにNATO軍を中心に組織された多国籍軍であったが、反政府武装組織の掃討作戦などで欧米諸国の兵士等が約3500人も戦死している。



自衛官のリスクを明らかにしない答弁が目立つ防衛相(防衛省ホームページから)

る。しかも、安保法制では、武器使用を大幅に拡大して妨害を排除するために先制的な発砲を認めることになるので、「妨害者らしい武装勢力が現れたら、排除のための機銃掃射」に及ぶことになる。武装勢力と一般市民の区別も困難で、検問や巡回活動において一般市民を武装勢力と誤認して銃撃する例も少なくない。自衛隊が海外で殺傷行為や戦闘行為に及び、死者を出すとリスクが高まることは確実である。(つづく)

歯界

自民党の若手議員団が勉強会に今一番売れている流行作家の百田尚樹氏を講師に招いた。政策勉強会にも、どうしたら人気者になれるかという主催者側の思惑が見え見えである。

百田氏の最近作『夢を売る男』はコメディータッチで出版界の裏を暴露すると同時に、活字文化の危機的状況を活写している。活字に携わる新聞部員としても看過できない。氏の作品は文体そのものが読みやすく読者へのサービス精神に溢れており、並の文章読本より実用的である。

しゃべりもうまいかどうかは私には分からないが、恐らく聴衆を引きつける面白さは抜けていないだろう。

だが、少し調子に乗りすぎた。講演の後の座談での発言だったと弁解するものも氏らしく面白い。民主主義の根幹をなす言論の自由を権力者に抑えてもろくのを期待する発言は当然物議を呼んだ。皮肉にも世間の見識の健全さが示された。

今日の数字

8億円

「漏れた年金」への対応経費(年金機構の試算)。被害の全容が判明すればさらに高額に。